

作業療法士の多様な キャリアのあり方

特集にあたって

時代や社会構造の変化から“生涯にわたって一つの組織で働く”作業療法士は以前より少なくなり、多くの方が転職、進学、起業、結婚、育児等による、何らかの働き方の変化を体験しているかと思います。

これまで本邦は終身雇用を前提とした「組織キャリア」の考え方が強く、組織や業界の中でどう立場をどう高めていくか、どう組織で生き残るか等が重要とされてきました。これからはそれに加えて「個人キャリア」の考え方、つまり所属している組織外でも個人の市場価値があるのか、個人のありたい姿に基づく仕事ができているか等の考え方も、必要度が増してきているといえるでしょう。

今回、ゲストエディターとして本号での特集および、次号から6カ月予定で連載されるキャリアデザインにかかわる企画を担当させていただきました。「臨床」、「教育」、「研究」、「管理」、「海外」、「転職」、「起業」、「進学」、「地域貢献」、「家庭」の10カテゴリーの個人キャリアの開拓者によるキャリアの考え方は、きっと皆さんが将来を考えるうえで参考になるものだと思います。

ぜひ、読者の皆さんのキャリアと重ねるように読み進めてみてください。本企画が皆さんのこれからの生き方（＝キャリア）を考える一助になれば幸いです。

（元廣 惇）

企画担当

元廣 惇（株式会社 Canvas、代表取締役・作業療法士）

香山 明美（東北文化学園大学、作業療法士）

長野 敏宏（御荘診療所、医師）